CD-1 型消防ポンプ自動車

仕　様　書

平成２５年度

光地区消防組合消防本部

第１章　総　則

１　目的

この仕様書は、光地区消防組合消防本部（以下「当本部」という。）が平成 25 年度に購入する CD-１型消防ポンプ自動車（水槽付）（以下「本車両」という。）の仕様について定める。

２　適合法令等

本車両の製作は、仕様書及び承認図書によるほか、次に掲げる法令等に適合し、緊急自動車として承認を得られるものとする。

（１）消防防災設備費補助金交付要綱（平成 18 年 4 月 1 日消防消第 49 号）
（緊急消防援助隊設備整備費補助金交付要綱）
（２）国が行う補助の対象となる消防設備の基準額（昭和 29 年総理府告示第 487 号）
（３）動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令（昭和 61 年自治省令第 24 号）
（４）道路運送車両法（昭和 26 年法律第 185 号）
（５）道路運送車両の保安基準（昭和 26 年運輸省令第 67 号）
（６）日本消防検定の定める消防車両の安全基準
（７）その他の関係法令等

３　車両概要

本車両は、3 トン級消防専用シャシに水槽付消防ポンプ装置（消防検定 A-2 級以上）、無線電話装置及び消防活動上必要な資機材を装備し、迅速確実な消防活動を行うことができる消防ポンプ自動車とする。

４　製作上の問題処理等

（１）車両の保管責任は、当本部の最終検査を受けるまでの間は、受注者が負うものとする。
（２）仕様内容に疑義が生じた場合、又は仕様の変更が必要な場合は、当本部とその都度協議すること。
（３）仕様内容については、当本部の解釈に従うものとする。
（４）本車両の製作にあたり、工業所有権その他法令等に抵触する問題が生じた場合は、受注者においてこれらの問題を解釈し、その旨を当本部に報告すること。

５　製作上の注意

本車両は、常時登録された車両総重量の状態において十分耐え得るもので、次のとおりとする。

（1）標準装備以外の各装置及び部品の取り付けは、ボルト締めを原則とすること。
（2）車体全般にわたり、防水、防蝕及び防錆措置を十分行うこと。
（3）清掃、点検、調整及び修理が容易に行えるものとすること。
（4）使用取扱い上の安全及び操作性を十分考慮すること。
（5）全体的に重量軽減を図り、前後左右の荷重バランスを十分考慮すること。
（6）装備品等は機能的、かつ、バランスよく配備すること。
（7）堅牢にして長期の使用に十分耐え得るものであり、かつ、維持管理が経済的に行えるものとすること。
（8）洗浄ができ、かつ、残水等の生じない構造とすること。又、車体等で塗装剥離の恐れのある部分には、適切な保護対策を講ずること。
（9）法定点検整備が容易に行える構造とすること。

6　提出書類
（1）受注者は製作にあたり、次に掲げる書類（A4 版に製本）を各 2 部当本部に提出し承認を受けること。
ア　製作工程表
イ　艤装外観図（五面図、名称入り）
ウ　キャブ改造図（空気呼吸器固定装着、後部座席改造図含む）
エ　シャシ諸元明細書
オ　車両カタログ
カ　艤装諸元明細書
キ　車体骨格図
ク　資機材収納ボックス作成図
ケ　装備品取り付け図
コ　ポンプ関係図（水槽含む）
サ　真空ポンプ関係図
シ　配管図及び配管系統図
ス　電気系統配線図
セ　梯子昇降装置関係図
ソ　使用資機材明細一覧表（メーカー名及び型式）
タ　その他当本部が指定するもの
（2）納入時にあたり、次のものを各 2 部当本部に提出すること。
ア　完成図（五面図）
イ　自動車車検証の写し
ウ　シャシ取扱説明書
エ　整備要領書

オ　緊急自動車届出確認証の写し
カ　改造自動車等審査結果通知書の写し
キ　総務省令で定める技術上の規格に適合した旨を示す適合書の写し
ク　消防ポンプ（真空ポンプを含む）試験成績表
ケ　受託試験合格及び安全基準適合プレートの写し
コ　水槽製作者の自主検査書の写し
サ　ポンプパーツリスト
シ　装備品等一覧表（保証書付）及び取扱説明書
ス　主要資機材一覧表（保証書付）及び取扱説明書
セ　納品書、納品明細書
ソ　計量証明書
タ　その他当本部が指定するもの

7　検査

（1）検査申請

検査の申請は書面をもって行い、検査日、検査場所を明記すること。

（2）中間検査

艤装中間検査は、必要に応じ塗装前に実施する。

（3）完成検査

ア　受注者は、各部給脂等点検を入念に実施し、燃料を満タンにして検査を受けること。

イ　車両等の取り扱い要領については、各専門業者による指導を受注者の責任において実施すること。（納車後、指定日１日間以上）

8　納入

（1）完成車両は、緊急自動車の登録、山口県陸運局山口陸運支局の行う新規登録検査後納入すること。又、自動車重量税、自動車賠償責任保険料及びリサイクル料以外の新規登録に係る費用は受注者が負担する。

（2）納入場所

光市光井六丁目 16 番１号　光地区消防組合消防本部

（3）納入期限

平成 26 年 2 月末日

（4）発注台数

１台（取り付け品及び取り付け装置等含む）

9　保証期間

保証期間は完成車納入後２年とする。

ただし、保証期間後であっても艤装又は材料不良による故障等にあっては、無償でこれを取り替え又は修理すること。

第２章　仕　様

１　主要諸元

シャシは消防検定を受けたCD-Ⅰ型4輪駆動消防ポンプ自動車とし、平成25年度に製作されたもので、性能・諸元及び装備は当本部において公表したものとする。

（１）シャシ関係

ア	キャブ形状	4ドア・ダブルキャブ（消防専用シャシ）
イ	ミッション	MT使用（マニュアルミッション）
ウ	エンジン	水冷式4サイクルディーゼルエンジン
エ	排気量	2990cc以上
オ	消防出力	140PS以上
カ	ホイールベース	2750mm以上
キ	乗車定員	5名
ク	車両総重量	8000kg未満
ケ	バッテリー	24v－100AH以上
コ	オルタネーター	24v－80AH以上
サ	タイヤ	ラジアルタイヤ
シ	燃料タンク	60L以上
ス	サイズ	全幅約1,900mm以下
		全高約2,750mm以下
		全長約6,000mm以下

（２）消防自動車として次のものを装備すること。

ア　ＰＴＯ装置
イ　パワーステアリング・パワーウインド
ウ　ＡＢＳ・排気ブレーキ
エ　冷却水（サブラジエター）
オ　オイルパンヒーター
カ　エアコン（純正）
キ　オイルクーラー
ク　エンジン回転計・ＰＴＯアワーメーター・エンジン油温計
ケ　キャブチルト
コ　サンバイザー（助手席を含む）及びサイドバイザー
サ　ディスチャージヘッドランプ
シ　ルームランプ灯
ス　助手席マップランプ

セ　フロント牽引フック
ソ　集中ドアロック
タ　フロントバンパー上部アルミ縞板張り
チ　ブレーキロック
ツ　フォグランプ

2　ポンプ関係

（1）消防ポンプ関係

ア　ポンプ本体は、アルミニウムを主材料とすること。
イ　型式：高圧二段バランスタービンポンプ又は一段ボリュート式水ポンプ
ウ　ポンプ性能
日本消防検定協会の行う動力消防ポンプ規格 A-2 級以上で合格品とする。
（ただし、同等は不可とする）

（2）主ポンプ動力伝導装置

主ポンプの動力伝導装置は、シャシのトランスミッション後方にポンプ駆動ギアケースを設置し、エンジン動力を有効にポンプに駆動するもので、操作は運転席のレバー又はスイッチにより、容易に動力の切断が出来るものとする。

（3）無給油式真空ポンプ（全自動揚水装置付）

ア　真空ポンプは四枚羽根以上を有する無給油型偏心ロータリー式とする。
イ　真空ポンプ動力伝達装置は、ギア式又はベルト式とする。
ウ　メンテナンス性を考慮し気水分離装置等一切設けない構造とし、水が混入しても支障が無い構造とすること。
エ　真空ポンプ内が洗浄できる構造とすること。
オ　真空ポンプの性能は、附属吸管を連結して 30 秒以内にて水銀柱 640mmHg 以上とすること。

（4）ポンプ不凍液装置

ア　180cc タンク付不凍液装置を車体右ポンプ室内に設けること。
イ　ごく少量の不凍液を中央吸水管部より吸入させて、主ポンプ等主要部の凍結を防止する構造とする。
ウ　不凍液が逆流しない構造とすること。

（5）吸吐水口

ア　吸水口は車体の両側に1個づつ設け、吸管横引用 75mm ボールコックを装備し、

エゼクターバルブにより連続放水が可能な構造とすること。

両側吸水口には、中継口用 65mm メス金具を常備すること。

イ　吐水口は車両両側に各 2 個づつ 65mm ボールコックを装備すること。

ウ　中継口は車両両側に各 1 個づつ 65mm ボールコックを装備すること。

（6）ポンプ操作装置

ア　ポンプ室の左右の見易い位置に、自光式の圧力計・連成計・揚水装置及びエンジンスロットル装置を設けること。また、右に冷却水装置を設けること。

イ　デジタル流量計を左右の見易い位置、積算流量計を右側の見易い位置に取り付けること。

ウ　機能は次によるものとする。

（ア）各ボールコックの開閉状況の確認表示

（イ）冷却水通水表示

（ウ）真空ポンプ駆動表示

（エ）真空ポンプ自動回転スイッチ

（オ）真空ポンプ停止スイッチ

（カ）真空ポンプ非常作動スイッチ

（キ）真空ポンプ 30 秒タイムオーバー警報

（7）水槽

ア　容量は、600L 以上とし、PP 材で水圧や車輌の振動にて変形及び水漏れ等のない十分な強度を有する構造であること。

イ　水槽とポンプ吸水側の配管に 65mm 以上のボールコックを設け、車輌両側部より開閉可能な構造とすること。

ウ　ポンプ吐出側と水槽の配管に 40mm 以上のボールコックを設け、車輌右側部より開閉可能な構造とすること。

エ　タンク補給口は、水槽両側に逆止弁付補給口（ストレーナー及び 65mm 差し込み式メス金具付）を設け、鎖付キャップを取り付けること。

オ　オーバーフローパイプは、走行時の漏水が最小となる構造とすること。

カ　車輌上部に容易に開閉可能な点検用マンホールを取り付けること。

キ　水槽下部には、ドレンバルブを設け、車輌側面で開閉ができるように取り付けること。

3　ボディ艤装

ボディは左右各 2 面・後部 1 面の合計 5 面のシャッター（赤色）で覆い、資機材収納ボックス及び収納スペースは下記の構造とすること。（別途協議）

（1）ポンプ室下部サイドボックス

左右とも下開扉式（ステップ兼用扉）とし、右サイドボックスには発電機を収納するためにスライド式の板を設けること。（別途協議）

（2）水槽、ポンプ室、ポンプ室上部

左右水槽及びポンプ室部全体をシャッターで覆うこと。

ア　ポンプ室上部は資機材収納スペースとし、間口約 700mm×奥行約 1850mm×高さ約 700mm 以上の空間を確保した筒抜け構造とし、下側の縞鋼板にポンプ室点検口を設けること。また、この収納スペースはポンプ室より左右共に約 275mm 張り出す構造とすること。（別途協議）

イ　水槽後部右側は、C-1 級可搬ポンプ（トーハツ V20E 全長約 560mm×全幅約 475mm×全高約 530mm）の収納のため、スライド引き出し装置及びピン等による固定装置を設けること。

ウ　可搬ポンプを、収納室から引き出した状態で始動点検できるように、可搬の始動装置関係が前側、排気口が後側になるように取り付けて積載すること。（別途協議）

エ　可搬ポンプを収納する上部に収納スペースを設け、スライドで取り出し可能な木製ボックスを設置すること。また木製ボックスの落下防止を講ずること。（別途協議）

オ　水槽後部左側はホース等のスペースとし、ホース収納箱を設置すること。（ホース収納箱の仕様については別途協議）

カ　LED 作業灯を、車体左右上部の前部及び後部対象に 4 個設けること。（別途協議）

キ　水槽左側板にクワドラノズルφ50 用を 2 つ取り付けること。

ク　水槽右側板に粉末ＡＢＣ消火器 20 型 1 本を取り付けること。（別途協議）

ケ　水槽両側板の上部に、ヨネの両端支柱（FA-100B）100mm を使用して、パイプを通し、5 個の S 字フックを設けること。（別途協議）

コ　水槽両側板に、水量計及び補水口を設けること。

サ　水槽右側板に、不凍液、冷却水バルブを設けること。

シ　水槽両側板下部に、スライド式の机を設けること。（大きさについては別途協議）

（3）両側面後部

両側面後部は全体をシャッターで覆うこと。またシャッター内部に吸管を固定できる構造とすること。（図で示す通り）

ア　後部右側シャッター内は、吸管巻き内に以下の資機材を取り付けること。

（ア）吸管スパナ

（イ）ワンタッチストレーナー
（ウ）MHキーハンドル（09KA850SS 日の出式同等品 850mm）
（エ）スタンドパイプ
（オ）ディスクストレーナー

イ　ワンタッチストレーナー取り付け部分の吸管上部の左右側板は、長方形にくり抜きストレーナーを取り付けた状態でも収納出来る構造とすること。

ウ　後部左側シャッターの吸管巻き内中央部分下側に以下の資機材を取り付けること。なお、この吸管にはワンタッチストレーナーを付けておくこと。
（ア）吸管スパナ
（イ）消火栓鍵
（ウ）ホースバッグ（50mm×3 本）
（エ）MC分岐ボールバルブ（マルチ）

エ　下部にスライド式ステップを設けること。

（4）車体後部

車体後部は、シャッター一式とし、間口約 1250mm 以上×奥行約 1050mm×高さ約 1700mm の空間を確保した構造とする（別途協議）

ア　車体後部中央に電動アシスト型ホースカー（型式 TS-R120 全幅約 955mm×全長約 110mm×タイヤ格納時高さ約 500mm）を自動昇降式で取り付け、ホースカーはマルチ型分岐バルブ、単管そう 1 本及びクワドラノズル 1 本を取り付けることができる構造とすること。（別途協議）

イ　電動アシスト型ホースカーの上部及び奥には収納棚四段を設けること。また、各棚には資機材が取り出しやすいよう、ローラーを設けること。（別途協議）
（ア）電動アシスト型ホースカーの上部の空間（縦約 300mm×横約 1250mm×奥行約 860mm）に、右から空気ボンベ 3 本を収納できるストッパー付アルミ製収納箱を水平に設置し、左側にアルミ製スライド式収納ボックス（横 500mm×高 150mm×奥行 860mm）を設けること。スライド式収納ボックスは斜め下方にスライドする構造とすること。（別途協議）
（イ）二段目には 65mm ホース（二重巻き）が 10 本程度積載出来る棚を設け、転落防止策を講ずること。（別途協議）
（ウ）三段目の棚には、バルーンライトを左側に収納できる構造とし、右側にはガソリン携行缶をベルトで固定して収納できる構造とすること。（別途協議）
（エ）四段目の棚には、資機材収納ボックス（縦 250mm×幅 800mm×奥行 300mm）を左側に収納できる構造とし、右側には泡原液 20L 入り容器を 2 個積載しベルトで固定し収納できる構造とすること。（別途協議）

ウ　後部側板（内部）の構造について

（ア）後部シャッター内のホースカー左側板上側にホースブリッジを積載し、下側手前にスコップ、奥側にバールを積載すること。（別途協議）

（イ）右側ホースカー手前に資機材を積載できる構造とすること。

エ　車体後部右側に、上部へ登るための梯子（格納式）、ホースカー自動昇降装置の操作スイッチ及び上方にホースカー固定装置ノブを取り付けること。（図に示す通り）

電動アシスト型ホースカー操作スイッチについて下記に示す。

操作スイッチ「下降」により、油圧ポンプにつながりホースカーが回転運動と共に下り始める構造とすること。

操作スイッチ「上昇」により、油圧ポンプにつながりホースカーが回転運動と共に上り始める構造とすること。

オ　車体後部左側に埋め込み式ステップを設けること。

カ　シャシ付のナンバープレートを車体後方上部に取り付けること。

キ　車体後部にバックモニターを取り付けること。（別途協議）

（５）車体上部の構造について

ア　車体上部一面はアルミ縞鋼板とすること。

イ　車両上部は作業が容易に行えるようフラットとし、左側に手動昇降装置式ステンレス製三連梯子を取り付けれる構造とすること。（別途協議）

ウ　支点（強度最低 70kg 以上）を 4 箇所以上設けること。（別途協議）

エ　車体上部に二重の手摺りを設けること。（別途協議）

オ　車両上部右側に一連梯子、その上部に可搬ポンプ用の吸管を二重巻きにして取り付けること。

（６）サイドステップをキャブ後部まで延長し、バッテリーには引き出し装置を設けること。また、ステップ等は、全てアルミ縞板製とすること。

（７）フェンダーと吸管の接触部にはアルミ縞板を張ること。また、チェーン等の装着に支障がないような構造とすること。また、下開扉式ステップを設けること。

（８）泥除けは全輪に取り付けること。

（９）積載品は、落下防止の為ラッシングベルトで確実に固定し、ワンタッチで容易に脱着出来るようにすること。

(10) 車両止めは、給油口付近に取り付けること。（別途協議）

(11) シャッターの巻取支点は車体より上方に設定し、収納スペースの確保に努めること。

(12) シャッター内に水等が溜まらない構造とすること。

(13) 残水排除用配管（ドレン）は、パイプ等により車体下部まで配管し、排水する構

造とすること。
(14) オイルパンヒーターコンセント（キャップ付）は、キャブ右側外部に取り付けること。
(15) 鳶口をキャブ後部側の車体に左右 1 本づつ取り付けること。

4　キャブの構造
（1）キャブはダブルキャブ型とすること。
（2）シートは防水仕様とすること。後部座席にあっては空気呼吸器の脱着に支障が無い構造とすること。(別途協議)
（3）キャブ内助手席側で空気呼吸器が装着可能な構造とすること。(別途協議)
（4）キャブ後部は空気呼吸器取り付け装置 2 式取り付けができる様に張出式とし、座席背面シートは二段落ち込み式とすること。(空気呼吸器取り付け装置は軽量な物を使用すること)(別途協議)
（5）運転席と助手席の間に収納ボックスを設けること。(別途協議)
（6）キャブ左右センターピラー及び左右後部ピラーに乗降用の手摺りを設けること。
（7）前方座席上部オーバーヘッドコンソールに音声合成装置付電子サイレンアンプ、無線機、各種電装品スイッチ等を収納できるようにし、各スイッチには名盤を貼り付けること。(別途協議)
（8）キャブ内後部座席前方に書類収納ボックスを設けること。
（9）後部座席前方にステンレス製パイプを取り付けるとともに、S 字フックを 5 個移動可能な状態で取り付けること。
(10) キャブ内後部座席シート下部は物入れボックスとすること。また、そのボックスはキャブ後部ドアを開けた時両サイドから資機材等が取れるよう、引き出し式のものとすること。(別途協議)
(11) フロントバンパー上部前面にアルミ縞板を取り付けること。
(12) キャブ助手席側後部に旗立てパイプを 1 個取り付けること。
(13) 消防章（樹脂製メッキ）はキャブフロント部に朱色の台座を設けて取り付けること。
(14) キャブ内の床は、できるだけ低くしエンジン部等の点検が容易に行えるダブルキャブチルト構造とすること。また、点検時に三連梯子との接触防止のための警告音付センサーを設けること。
(15) ダッシュボードにバックモニター用画面を取り付けること。
(16) キャブ上部には赤色灯（大阪サイレン　NF-ML-VJ2M-LA2 同等）を取り付けること。

5　無線装置等

（1）デジタル無線化に対応するため、キャブ上部の後方に予めデジタル無線対応のアンテナ取り付けベースを 2 箇所確保し、アナログ及びデジタル無線双方に対応するケーブル 2 本をキャブ内まで配線すること。（別途協議）

消防無線機本体及び送受話器ハンドセットは旧車両から当本部が乗せ替えるため、受注者の負担は含まないが、取り付け場所を確保すること（別途協議）

（2）配線等

ア　配線については天井内張を通すと共に、漏水の無いように防水措置を講ずること。

イ　本車両に配備する無線局は、緊急走行や災害現場活動時及び周囲の騒音等による通話障害の無いように措置すること。

ウ　車両の装置等から発生する電気的な影響を受けないよう雑音防止措置を講ずること。

（3）左右水槽側板に埋め込み式スピーカー、ボリューム付無線送受話器取り付けボックスを設け、キャブ内部まで配線しキャブ内にもスピーカーを設け配線すること。（別途協議）

6　警音装置

（1）電子サイレンアンプ音声合成付をキャブ内オーバーヘッドコンソールに埋め込み式にて取り付け、スピーカーはキャブ上部前方右側に取り付けること。また、右左折及びバックギアメッセージは各ギアに連動して警報メッセージを発する構造とすること。

（2）キャブフロントに、LED 赤色点滅灯をキャブチルト時に支障がない位置に 2 式取り付けること。（別途協議）

（3）車体後部に、LED 赤色点滅灯を 2 式取り付けること。（別途協議）

（4）車体両側面上部に、LED 赤色点滅灯を 2 式づつ取り付けること。（別途協議）

（5）拡声マイクは、フレキシブルとし運転席右側上部に取り付けること。

7　照明装置（図に示す通り）

（1）メタルハライドサーチライト（35W）をポンプ室前方左右に伸縮式で取り付けること。（別途協議）

（2）メタルハライドサーチライト（35W）をポンプ室後方に伸縮式で取り付けること。（別途協議）

（3）車両後部上側に LED 作業灯を 2 個取り付けること。（別途協議）

（4）計器灯（蛍光灯）を左右計器板上部に各 1 式取り付けること。

（5）照明ランプをポンプ・機関室に取り付け、運転席から「入」「切」操作ができる構造とすること。

（６）キャブ内天井に LED 照明灯を設けること。
（７）LED 照明ランプを、左右ポンプ室上部、吸管巻き内上部、後部の資機材収納庫及び左右水槽下側の収納庫に取り付け、運転席から「入」「切」の操作ができる構造（メインスイッチと兼用可）とし、シャッター及び扉の開閉で点灯・消灯できる構造とする。
（８）路肩灯を左右後輪の前部に各 1 個設け、前照灯と連動して点灯・消灯できる構造とすること。

８　塗装・文字等
（１）車体は、特殊化学液で十分錆落としの上、燐酸塩被膜を形成後プライマー、パテ、水研ぎ、サフェーサーを行い、熱風乾燥炉にて十分乾燥させ、赤色塗料（ハイソリッドウレタン塗料　H-ECO　レッド）で吹き付けを行い、再度熱風乾燥炉にて十分乾燥させること。
（２）アルミ縞板は、銀塗装とすること。
（３）車体下回りは黒色塗装とすること。
（４）記入文字は全てカッティングシートで左から記入し、字体は丸ゴシック体とすること。（文字の大きさ、記入場所については別途指示する。）
（５）後部ドアに「光地区消防組合」と進行方向から記入すること。
（６）キャブ天井に「光Ｐ3」と後方から左書きで対空表示を記入すること。（寸法は縦７０㎝×横７０㎝程度とする。）
（７）標識灯に「光束 1」と記入すること。
（８）文字色は、標識灯が黒、対空表示が反射材入り白色とし、その他は白色とすること。
（９）その他のロゴマーク、ライン等については別途指示する。
（10）燃料給油口付近に「軽油」と記入すること。

９　その他
（１）下開扉式ステップは全てチェーンレスとすること。
（２）ステップを開いた時の安全確保のため、反射テープ（黄色）を貼ること。
（３）足掛けは、車両左右側板及び車両後部左側に取り付けること。
（４）エンジンオイルのレベルゲージは、キャブチルトをしなくても点検できるものであること。
（５）ホースカー自動昇降装置は、自動式であれば別途協議可能とする。
（６）車両の右側とは運転席側のことを言い、左側とは助手席側のことを言う。

１０　取付品・取付装置

No	品名	数量	備考
1	ポンプ圧力計	２式	100mm（自光式）
2	ポンプ連成計	２式	100mm（自光式）
3	自動揚水装置	１式	ソフトタッチ式
4	電子サイレン（拡声装置付）	１式	大阪サイレン　TSK-5102V
5	赤色警光灯	１式	大阪ｻｲﾚﾝ NF-ML-VJ2M-LA2 同等
6	照明灯（サーチライト）	２式	ﾒﾀﾙﾊﾗｲﾄﾞ 35W　NML35
7	照明灯（サーチライト）	１式	ﾒﾀﾙﾊﾗｲﾄﾞ 35W　NML35
8	作業灯（LED）	６式	側面４式、後部２式
9	標識灯	１式	赤色警光灯と一体型
１０	車外無線機送受話器取り出し口	２式	キャブ後部付近に取り付け
１１	フロント赤色点滅灯	２式	LF21
１２	後部赤色点滅灯	２式	LF12
１３	側面赤色点滅灯	２式	保護枠付
１４	キャブ内灯（LED）	１式	
１５	ポンプ室内灯	２式	
１６	エンジン室内灯	１式	
１７	署マーク	１個	樹脂製
１８	エンジン回転計	１個	シャシ純正
１９	エンジン油温計	１個	シャシ純正
２０	後退灯	１個	シャシ純正
２１	バックブザー	１個	
２２	バックモニター	１個	
２３	空気呼吸器取り付け装置	３式	ブラケットホルダー
２４	後輪照射灯	１式	
２５	支点	４個	強度 70kg 以上のもの
２６	引き出し式テーブル	２個	ポンプ室に設置
２７	泥除け	４枚	
２８	予備ボンベ収納箱	３個	アルミ製
２９	訓練旗立て	１式	
３０	スライド式引き出し装置	１式	可搬ポンプ用

No	品名	数量	備考
３１	ローラー装置	３式	
３２	ホース収納箱	２個	仕様にあっては別途図示

１１　付属品・装備

No	品名	数量	備考
1	吸管	２本	φ75×10m　金具 AC　ソフト軽量型
2	吸口スイーベル	２個	φ75×90°AC 製スロッター型
3	吸口ストレーナー	２個	φ75 プラスチック製
4	ストかご	２個	φ75 プラスチック製（ワンタッチ式）
5	吸管枕木	２個	φ75 用　ゴム製
6	吸管ロープ	２本	φ75×15m　ビニロン製
7	車輪止め	２個	ゴム製
8	消火栓金具	２個	φ75 ネジメス×φ65 ネジ町野式メス AC 製
9	中継用媒介金具	２個	φ65 ネジメス×φ65 ネジ町野式メス AC 製
１０	消火栓開閉金具	１本	09KA850SS（日の出式同等品 850mm）
１１	消火栓鍵	１丁	
１２	吸管スパナ	２丁	φ75 用
１３	管鎗	２本	ヨネ PP-50A・EXS×500mmAC 製×１ ヨネ PP-65A・EXS×500mmAC 製×１
１４	ノズル（替口）	２個	φ23、26（アルミ）：標準装備
１５	噴霧ノズル	１個	ヨネ NV-65W・Ⅱ
１６	放口媒介金具	４個	ANS-65 MC（２個）、ﾖﾈ ANS-65（２個）
１７	鳶口	２本	1.8m
１８	金てこ	１本	φ25×850mm
１９	剣先スコップ	１丁	
２０	三連梯子（ステンレス製）	１脚	KHFL-SIW（縮長 7,469m・30kg）
２１	自動車用消火器	１個	粉末 ABC 消火器 20 型
２２	ポンプ工具	１式	冷却ストレーナー用スパナ
２３	補修用ラッカー	１缶	赤 500g
２４	車両用工具	１式	シャシ純正
２５	ホースブリッジ	２個	スーパーL 型　65×1 本用
２６	電動アシスト型ホースカー	１台	型式 TS-R 120（東京サイレン）
２７	水槽	１式	PP 製（600L 以上）
２８	ケーブルチェーン	２	scc　japan
２９	65mm 消防用ホース（黄）	１０本	1.6MPa 国家検定品ｷﾝﾊﾟｲ、ｱｼﾓﾘ又はｻｸﾗ
３０	50mm 消防用ホース（青）	１０本	1.6MPa 国家検定品ｷﾝﾊﾟｲ、ｱｼﾓﾘ又はｻｸﾗ

No	品名	数量	備考
３１	900W 発電機		ホンダ EU9i　900KVA
３２	スタッドレスタイヤ	６本	
３３	異径媒介 65 メス－50 オス	２個	ヨネ AD65・50AC 製
３４	バルーンライト	１個	400W
３５	投光器三脚	１個	（ケース 650×420×240）
３６	コードリール（30m）	１個	GS-30 と同等品
３７	噴霧ノズル	２個	ヨネ NH-50QF（呼 50）
３８	資機材収納箱（木製）	１個	縦 250mm×幅 800mm×奥行 300mm
３９	資機材収納箱（木製）	１個	仕様書 3 ボディ艤装(2)エのスペースに合わせること。
４０	一連梯子	１脚	KHFL-TOT31
４１	可搬ポンプ用吸管	１本	φ65×全長 6m
４２	吸管ストレーナー	１個	φ65 プラスチック製
４３	ストかご	１個	φ65 プラスチック製
４４	吸管ロープ	１本	10m ビニロン製